

学校便り「尚徳」卒業号
第465号
鳥取大学附属小学校
平成23年3月11日
<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>
題字「尚徳」は、住川英明教授（地域学部）



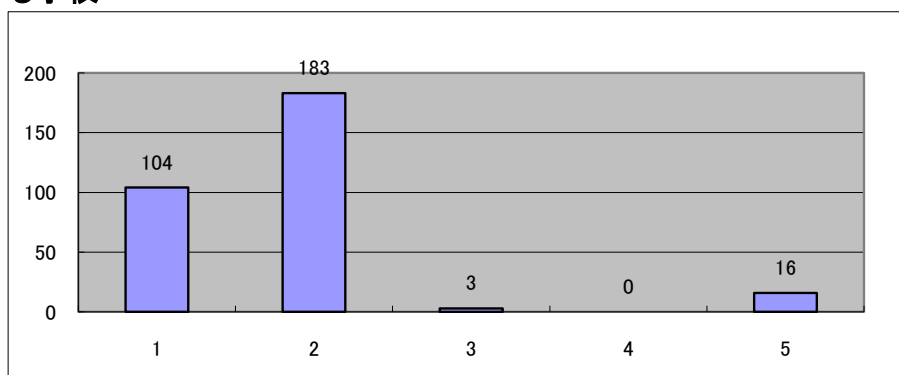
平成22年度 本校教育に関する保護者アンケート結果

本年度の本校教育に対する保護者の皆様のアンケート結果を集計しました。ご多用の中、ご協力をいただき本当にありがとうございました。昨年度の結果と比較しますと、各項目にわたって「とてもよい」「だいたいよい」の評価人数が大幅に増加し、「あまりよくない」「よくない」の評価人数が非常に少なくなっていることが分かりました。このことは、日々の教育活動の具現化・質の向上に対する学校の取り組みが、児童の姿に現れてきている成果ととらえていいのではないかと考えております。しかし、個々の項目に目を向けると、まだまだ工夫が必要な面もみられます。来年度は、今年以上に優れた教育実践の構築を目指して努力したいと思います。今後も、保護者の皆様のご意見やご要望を生かしながら、本校の特色ある教育活動を継続発展させると共に、課題解決に向けてさらなる努力をしていきたいと思ひます。ご理解とご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

(家庭数 352 回収数 306 回収率 87%)

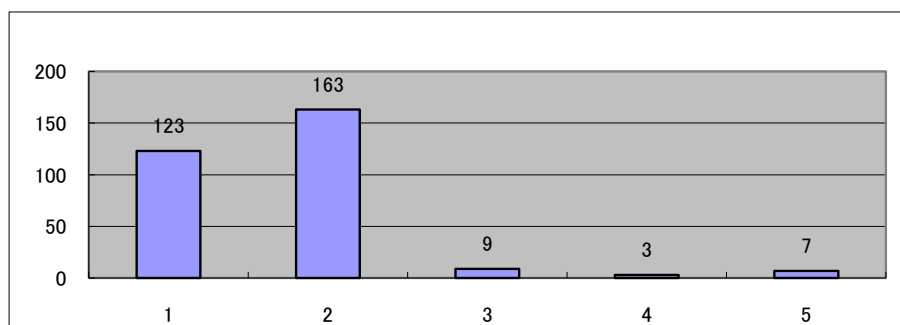
1:とてもよい 2:だいたいよい 3:あまりよくない 4:よくない 5:わからない 数字は人数

1 わくわくする学校



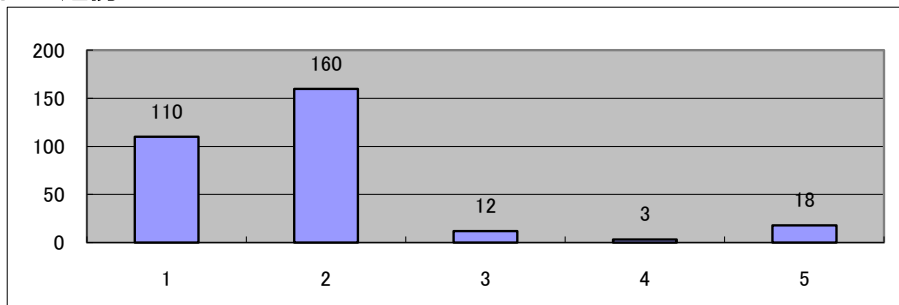
「子どもたちが生き生きと学校生活を送り、学校に行くのをとても楽しみにしていた」「常に目標をもち、意欲的に取り組み、チャレンジする姿勢が見られた」というご意見を複数いただきました。今後も、「わくわくする学校」を目指し、子どもたち一人一人が目標をもち、創造的に学習できる場を設定することに努めていきます。

2 学ぶ意欲と学力向上



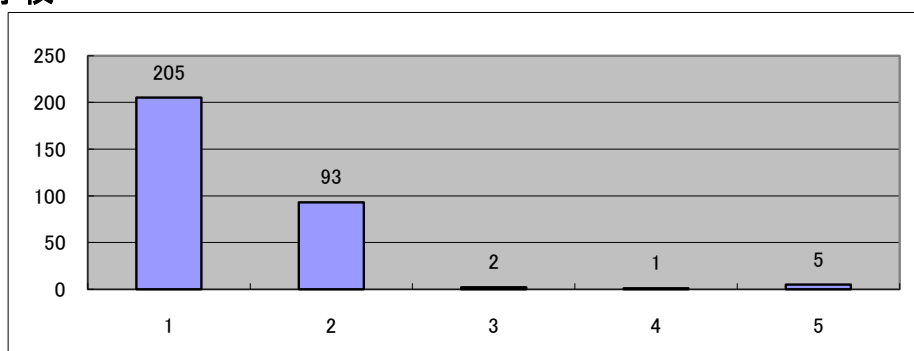
図書の時間の設定による読書意欲の高まり、学習の中での図書の活用の活性化等図書館教育に対する評価を多くいただきました。また、子どもたちの表現力の向上や学習環境の整備を評価して下さった意見もありました。学力向上の面では、一人一人に基礎基本の力をつけることはもちろんのこと、個々の実態に応じた発展的な学習も取り入れるよう努めたいと考えています。

3 附属学校園との連携



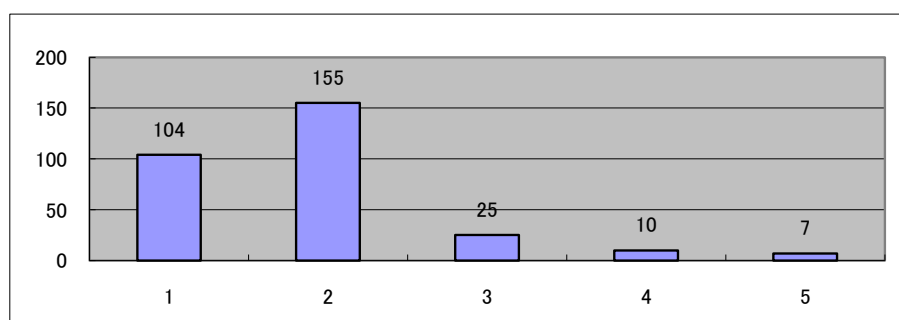
附属学校園との連携や交流は、本校の特色の一つでもあり、子どもたちにとってよい学びの場となっていると同時に、相手のことを考えたり優しい気持ちを育んだりすることのできる活動となっています。継続的に取り組むと共に、対象学年、内容、回数等見直しを図りながら、さらなる活性化を図っていきたいと考えます。また、今年も附属中学校との具体的な連携が見えてこないというご意見を多数いただきました。隣接しているという環境を最大限に生かしながら、小中連携を具現化するための組織づくりや交流の場の設定等の取り組みについて、検討していきたいと考えています。

4 魅力ある学校



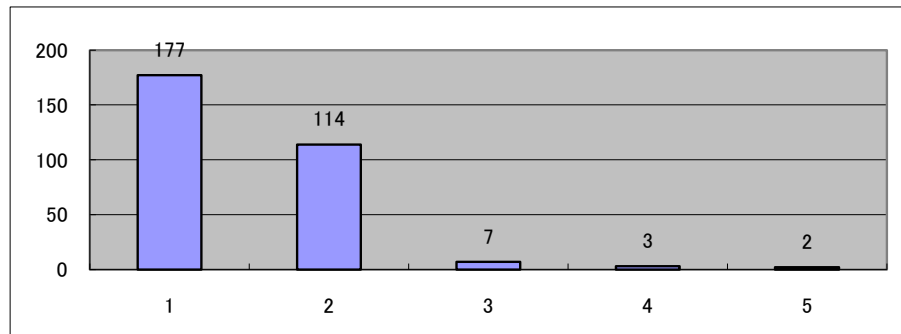
大学との連携による各種行事や学習活動、特色ある行事を体験することができ、子どもたちにとって学校が魅力的な場所になっているというご意見をたくさんいただきました。特に今年は秋に行った舞台芸術体験に対して、子どもたちがとても感銘を受けていたという声が多く、本物に触れることの意義を改めて感じました。さらに魅力ある教育活動を多く取り入れることによって、学習の幅を広くしていくことに努めていきます。

5 思いやりと規範意識の醸成



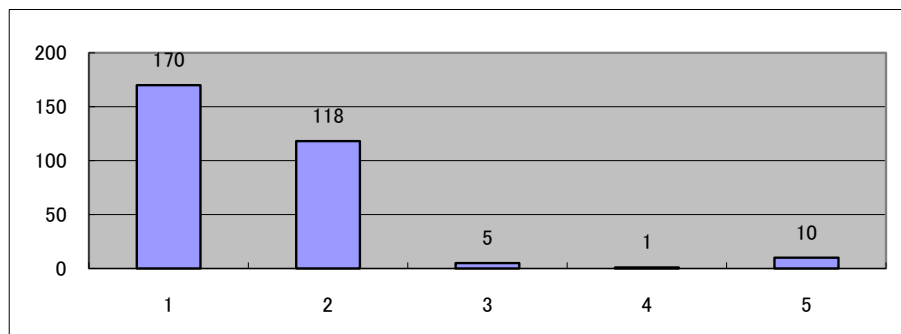
他の項目に比べ、肯定的な評価が低く、本校の課題となる項目です。この中で、あいさつと乗車マナーについてのご意見を多くいただきました。「あいさつ」については、気持ちのいいあいさつをする子が増えたという感想もいただきましたが、大半は学校外でのあいさつが不十分であるとのご意見でした。また、公共交通機関の乗車マナーについても、上級生が下級生を気遣って先に乗せるなどの行動も見られる反面、まだまだ指導を要する点が多いことを改めて感じました。教師や保護者が見ていない場面でも、しっかりと社会のルールを守るという態度を身につけさせるよう、家庭と学校が連携協力して取り組んでいかねばならないと感じております。

6 安全に関する教育・体制、家庭の連携



不審者情報や台風や大雪等気象状況に応じたメール送信システム（メルポコ）が、保護者の安心感につながっているという支持のご意見をたくさんいただきました。また、下校の際の安全管理について、複数下校、鳥大前駅・バス停での安全な待ち方の徹底等のご要望もありました。子どもたちの登下校の安全確保について、家庭と一層協力して取り組んでいきたいと考えます。

7 国際理解教育



英語活動やワールドタイム、鳥取大学の留学生との交流等について、「自然と世界へと目を向けていける素晴らしい環境」ととらえてくださる賛同意見が多くありました。特に今年は、2年ぶりに姉妹校である春川教育大学学校附設初等学校へ44名の親善大使の訪問が実現したことで、関心が高まったという面もあるようです。今後もより広い視野をもって、いろいろな国々についても学べる環境づくりをしていきたいと考えます。そして、英語活動のカリキュラム改善と合わせて、国際理解教育をさらに充実したいと考えます。

まとめ

本年度も、附属小学校の特色ある教育活動（大学との連携、国際理解教育、学校シリーズ、文化面の行事の充実、学習環境の整備など）に肯定的な評価とご理解を多数いただきました。その結果として、子どもたちがいきいきと充実した学校生活を送っている、楽しみながら伸び伸びと学習や各種体験に取り組んでいる、という感想が数多く寄せられました。一方で、毎年課題となっている思いやりの心の育成や規範意識の向上については、昨年度より評価は上がっているものの徹底できていない面があります。学校・家庭が連携するのはもちろんのこと、中には中学校も巻き込んで取り組まなければならない点もあるととらえます。全てのことを解決するのは時間がかかると思いますが、一つ一つの内容を真摯に受け止め、努力事項を絞り、対応策をうちたてて取り組んでいきたいと考えます。また、本年度は、各項目に対する「わからない」という評価が大幅に減少しました。これは、保護者の皆様方が学校便りや本校のホームページに関心をもっていただき、目を通していただいたからだと考えます。ホームページについては、今後も月2回の更新で、教育活動の様子を発信していきますので、引き続きのご利用をよろしくお願いします。